

編集委員が選んだ本

『謎解き 広重「江戸百」』

原信田実／集英社新書／2007年4月／1155円
 広重の大作『名所江戸百景』118作品のうち45点の作品の「謎」が解明されている。例えば、ゴッホが模写したことで有名な「大はしあたけの夕立」、厳しい出版統制の中で、広重は関心の対象を遠景に描くという手法で、幕府の戦艦などが係留されている御船蔵の改修完成の様子を背景にさりげなく描き、それを驟雨で煙らせて隠している。ここから「江戸百」は、単に風景を描いたのではなく、広重の強いメッセージが込められていると読み解く。江戸後期以降、事件や災害があると様々な摺物が流通し、庶民がこれらの情報を大量に消費する状況が生まれてきた。「江戸百」も同様、そこに描かれている風景は、その時代のニュース映像というわけである。安政年間の江戸の様子や、そこに生きる人々の息づかいまで聞こえてきそうな精密な分析が随所に見られる。巻末に「江戸百」全作品が発行順に、しかもカラーで掲載されている。それを眺めるだけでも楽しい本である。

『閉塞経済—金融資本主義のゆくえ』

金子勝／ちくま新書／2008年7月／714円
 100年に一度の未曾有の経済危機と言われている昨今、格差問題が貧困問題になり、憲法で保障された国民の生存権を侵害するまでに深刻化している状況の中で、経済学は果たして有効な対応策を打ち出すことができるのか。金融資本主義の危険性を指摘し続けてきた著者は、「貧者は救うべきだ」という人権に関わる問題に、主流経済学は解答を持ち得ないと指摘する。生存権保障などの福祉国家規定は、社会主義の影響を受けて生まれたが、本来、資本主義の原理とは相容れないものであること。だからこそ、「社会主義」崩壊とともに剥き出しになった資本主義は、ブレーキの利かない車のように暴走を始めたのである。本書では、その暴走車をコントロールする新しい経済学の可能性を探っている。

『G8 サミット体制とはなにか』

栗原康／以文社／2008年6月／1680円
 2008年7月の洞爺湖G8サミットの3日間の警備だけで、160億円以上の資金（税金？）が投入されたという。そこまでして“守られる”サミットで決められていることは何か……新聞報道の裏側で進行しているものは？
 本書を読んで「なるほど！」と思ったのは、IMFや世界銀行と連携しながら、第三世界の諸国に新自由主義を受け入れさせるプロセスである。たとえば、1982年のL.A. 諸国の債務危機がひき起こされたからくり。第三世界諸国に強制された構造調整政策とは何か。遠く感じてきたサミットが、人々の生活に落とす影に慄然とする。

『子どもの貧困』

阿部彰／岩波新書／2008年11月／819円
 ついこの間まで「史上最大の利益」をあげていた多国籍資本による投機的資本主義は、今や世界を大混乱に陥れている。酷いことに、そのツケは非正規労働者など弱者に押し付けられている。しかも日本では、「子どもの貧困」に対しての認識不足、さらに政府の政策も国際的にお粗末なものに終始してきたため、子どもとその将来には恐ろしい暗雲が立ち込めている。現実には、経済協力開発機構（OECD）が報告した2006年7月の「対日経済審査報告書」にある通り、日本の相対的貧困率はアメリカに次いで第2位である。筆者は豊富なデータを使って、子どもの貧困の定義、測定方法、大人になっても続く不利と貧困の関係などを詳細に解き明かす。これを打破する「子ども対策」とは何か。ヒントも詰まっている。

『反貧困の学校』

宇都宮健児・湯浅誠編／明石書店／2008年10月／1575円
 日本で広がる貧困に対して、人間らしい生活と労働の保障を実現し、社会的・政治的に貧困問題を解決しようとする一大市民運動が始まっている。それが2008年3月におこなわれた「反貧困フェスタ」である。以降、着実にその運動は広がっている。本書は「貧困をどう伝えるか、どう学ぶか」という視点で編集されている。筆者の学校でも、子ども・家庭の過酷な社会環境のなか授業料の滞納に追い込まれ、学校行事への参加が危ぶまれるケースがいくつも起きている。反貧困ネットワークの運動を全国に広げることは、教師の重要な役割である。

『ルポ 貧困大国アメリカ』

堤未果／岩波新書／2008年1月／735円
 読んでいて怒りに胸が震え、あまりに絶望的で気分が悪くなる。……でも、目をそむけられない。なぜなら、日本で今起こっていることの原因を、深く理解することにつながるように思えるからだ。
 かつてどこかの国で、「官から民へ」という言葉が、まるで、すべての問題を解決する魔法の呪文のように語られた時、違和感を感じたが、これと「自己責任」という文句が、どこまで人々を突き落とすのか。たとえば医療にこれらが持ちこまれた時、患者や、そこに働く人々がどんな事態に追い込まれるのか。
 そして、政治が人々の生活に与える影響。このパンフが世に出たころ、オバマ大統領は何を打ち出していることだろうか。